

天天中文シリーズ講座：中国語でキャリアアップ！

「中国語でキャリアアップ！」は中国でキャリアを発展させる各界の方々に、仕事の現場や中国語学習法についてお話を伺う「天天中文」のシリーズ講座。中国の各界で活躍する皆さんに、仕事や生活のリアル体験をお伺いします！

第13回（2022年10月11日）ゲスト：呉小瑾さん

北京語言大学副教授、北京大学でも修士課程の学生の指導にあたる。日本語の専門家として長く中国人学生の指導にあたるほか、国際会議の同時通訳など実務経験も豊富。日本でも北海道大学、北海道女子大学、東京大学、電気通信大学、愛知大学などでの中国語指導の経験もあり、日本語、中国語教育の両面におけるエキスパート。

天天中文：呉先生、今日のご参加いただき本当にありがとうございます。みなさんからは、中国語や中国の社会について、どんどん質問をぶつけていただければと思います。では、最初に先生から自己紹介をお願いします。

呉：はい、呉小瑾と申します。私は1979年、上海外国語大学に入学、4年間日本語を学び、卒業後すぐ湖南省の大学で日本語を教えています。3年後、黒龍江大学で日本文学を専攻、修士をとり、在学中に主人と出会い結婚しました。その後、主人が国家派遣により日本で博士課程に留学することになり、私も大学院卒業後、日本に行きました。1990年ですので、もう30年以上も前のことになりますね！日本で生まれた息子がもうすぐ30歳になります。2001年、海外から優秀な人材を中国に招く「100人計画」に応じて、すでに博士号をとり、電気通信大学などで教鞭をとっていた主人とともに中国に帰りました。主人はいま中国科学院の半導体研究所にいて、私はいま北京語言大学で教えると同時に、北京大学の修士課程生にむけ通訳の授業の担当をしています。今日も午前中は北京大学、午後は北京語言大学の授業があり、それを終えて、こうしてみなさんとお会いしています。今日は機会を与えていただいて嬉しく思っています。日本の永住権は持っていますが、新型コロナのこともあって、日本には5年以上戻っていないので、早くまた日本に戻りたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

天天中文：詳しいご紹介をありがとうございました。少し、私から先に先生に質問をしてもよろしいでしょうか。先生は、日本の生活で一番面白かったことは何でしょうか？

呉：私は、人と触れ合うことが一番好きで、仕事ももちろん真面目にやっていますが、仕事が目的というより、仕事を通していろんな人と親しく交わることができる。それが私にと

って一番楽しいことなんです。ですので、日本でも、私は留学生のなかでも、友達を一番たくさん作ったのではないかと考えています。私の主人もそうですが、留学生はみなひたすら勉強や研究をしていて、クラスメート、同僚、指導教官とのつきあいがほとんどですが、私の場合は、隣近所、特に子供が生まれてからは近所のお母さん方と友達になることができた。それが一番思い出深く、今思い出しても時々涙がでます。本当にやさしくしてもらってお世話になりました。外国で赤ちゃんを産むというのは大変なことだと思いますが、そこでなんにも不自由なく、まわりの方から赤ちゃんの着る服などを頂いたり、たくさんの方にお世話になりました。早く日本に戻って恩返しの旅がしたいという気持ちでいっぱいです。

天天中文：心と心が触れ合った、いいお話をありがとうございました！それでは、もう一つ、先生に質問なのですが、語学を長く教えていらして、伸びる生徒、伸びない生徒がいると思うのですが、伸びる生徒とはどんなタイプでしょうか？

呉：そうですね、伸びる学生は、まず朗読、声に出して読むのが好きな生徒ですね。私もそうでしたけれども。上海外国語大学時代は朝起きて、ジョギングをして朝ごはんを済ませたら、いろいろな場所で学生たちがみんな、音読を始めるんです。教室、廊下、校庭などでそれぞれが本を持って声をあげて読む。中国の外国語大学の伝統で、みんなそうしていると思います。私の場合は、特に録音を聴きながら読んでいたんですよ。それがいまでは「シャドーイング」といって同時通訳のひとつのトレーニング方法になっています。音声をなぞるように、影のように追いながら読んでいくやり方で、これが一番早く伸びる、という研究結果も出てるといわれます。同時通訳になりたいなら、「シャドーイングを毎日」と先生に必ず言われると思いますね。シャドーイングは、自分が好きな内容であればニュースでも、昔話、小説でも、テレビドラマでもなんでもいいのです。

天天中文：先生はこのシャドーイングを日本語でなさっていたのですよね？

呉：はい、そうです。でもこの方法はすべての外国語学習に通じると思います。ひと昔前だと、シャドーイングでなく、短文をリピートする方法でした。音声を真似しながら同時に追うのではなく、センテンスが終わってから真似をして言ってみる、という方法でしたが。シャドーイングは、やりだすと、とても楽しいし、病みつきになりますよ！しかも日本の脳科学では、声を出して読むのは、脳の活性化につながる、という研究結果もあるそうですね。ボケ防止にもなりそうです。

会員：相手が話す中国語がとても速くて、ついていけない場合はどうしたらよいのでしょうか？

呉：最初はそうだと思います。でもやっているうちに慣れてきます。慣れてくると楽しくなってくるんですよ。私の教え子も「毎日、シャドーイングをしてから出かけると、その日一日が元気でいられる。シャドーイングをしないで外出すると元気がでない」と言っています。本当にそうだと思います。意味が分からなくても声を出していると楽しくなってきますし、意味は調べればすぐわかることですし。意味がわかってシャドーイングが完璧にできたりすると、爽快感があります！私は北京大学でも、北京語言大学でも学生たちに毎日やらせていますが、できた時は本当に達成感があるようです。

ただ、言っている内容がまったくわからないと音だけにたよってついていけないといけないので難しすぎますね。内容がおおよそわかるけれど、一部の単語がわからない、ちょっと頑張ればついていける、くらいのレベルをシャドーイングするとよいですね。自分に適した、興味がある、言葉にしてみたい内容を選ぶのもポイントです。

会員：先生にとって印象深かった教材はありますか？

呉：私の場合は、ニュースとか、政治家のスピーチなどをよくシャドーイングしていました。国際会議の同時通訳の仕事が多かったので、そういったジャンルをシャドーイングしておくと思った言い方がすぐ出てくるようになるのです。私の場合は、大学で日本語を学び始めた時から録音を聴きながら練習していたので、言ってみれば知らず知らずのうちにシャドーイングをしていたようなものなのです。それが同時通訳の仕事につながったような気がしています。今はインターネットが発達しているのでシャドーイングしてみたい内容はたくさんみつかると思います。

最初、慣れないうちは文章をみながらでも構いません。慣れてきたら文章なしで音声についていくといいですね。スラスラできるようになると音声がなくても、暗記しようと思わなくても、自然に口から同じ中国語がでてくるようになります。暗記しよう！と思うと苦しくなるので、単純にシャドーイングを楽しむといいですね。やがて中国語をシャドーイングしているのに、日本語を聴いているのと同じように頭に日本語の意味が浮かんでくる。そうすると同時通訳が容易になっていきます。ぜひ、毎日、やってみてください。ちょっと今、ここで、やってみましょうか。

<この後、会員と呉先生のシャドーイングの練習>

会員：シャドーイングをやって呉先生の音についていくと、発音で力を入れるところ、抑揚がとてもよく分かります。それと、意味が分からなくて、つかえて、ついていけないところは、調べてみようと思います。

呉：そうですね！シャドーイングは、もう一度やってみよう、調べてみようとして自然に、自

分から思える。それは語学の上達にはとても大事なことです

会員：一日にどのくらいの時間、シャドーイングをしたらよいでしょうか？

呉：そうですね。ニュースだと少なくとも一日30分ありますよね。政治家のスピーチだと45分ほどでしょうか。昔話だと3,4分くらいです。そうした素材で、できれば一日、30分はしたほうがいいですね。自分のスケジュールに沿って、朝15分、夜15分など、分けてもいいです。北京大学の修士課程の学生には「一日、3時間」、とっています。朝1時間、昼1時間、夜1時間、というようにです。

会員：先生自身は学生時代、どのくらい練習なさっていたのですか？

呉：私の日本語はまさに音読でマスターした日本語なんですよ！授業時間以外は一日中、読んでいました。中国には「書讀百遍其意自見」という言葉があります。この「見」は「xian」（四声）と読みます。本は百回読めば意味がおのずと現れてくる、という意味なんですね。私はいつも読んでいたのでテキストの意味も全部わかり、単語も文型も覚えられ、むしろ授業はちょっと無駄なのではないか、とも思っていました。

日本でピアノを習っていた時、先生に「年齢の数だけ練習すれば覚えられる」と言われました。5歳なら5回、50歳なら50回。中国語には「熟讀唐詩三百首、不会做詩也會吟」という言葉もあります。唐詩を三百首も熟讀すれば、詩を作れない人でも吟じることができる、という意味です。そのくらい何度も繰り返して読むことは大事ですね。私はシャドーイングを繰り返すのが一番楽しいと思っていますが。そうすると自然と言葉が口からでてくるようになります。

シャドーイングは今、脳科学と併せて様々な効果が研究されています。例えば来週、同時通訳の仕事がはいつているが事前の原稿が何もない。そういう時はどうするか？私たちはシャドーイングをするんですよ。なぜかといえば、シャドーイングをすることでまず脳細胞が活性化される。活性化されると自然に集中力、記憶力が高まり反応も早くなります。当日になって初めて原稿を入手しても慌てることはないんですよ。シャドーイングは同時通訳のためでなく、もっと広い範囲で役立つ方法といわれています。

このあと語学や中国について、さらに呉先生と会員との交流が続きました。

文・天天中文

